

審議会等会議録

審議会等の名称	令和 7 年度第 1 回山口市子ども・子育て会議
開催日時	令和 7 年 8 月 6 日（水曜日） 10：00～12：00
開催場所	山口市役所 6 階 第 2 委員会室
公開・部分公開の 区分	公開
出席者	白石敏行委員、横山順一委員、藤井武明委員、萩嶺貴恒委員、宮原大地委員、 上野敦子委員、佐藤光恵委員、江頭真木委員、佐藤千鶴委員、道中真佐子委員、 伊藤祐子委員、縄田佳子委員、宮成真澄委員、水津寛委員、児玉頼幸委員、 安藤優子委員、俵紗弥佳委員、山縣昂亮委員（18 人）
欠席者	大田紀子委員、松尾憲正委員、南律子委員、右田俊博委員、村上竜司委員、 大隈進委員、久富祥子委員
事務局	こども未来部長、こども未来部次長、こども未来課長、保育幼稚園課長、 子育て保健課長、教育総務課長、社会教育課長、学校教育課指導担当主幹、こども 未来課総務担当主幹、こども未来課子育て応援担当主幹、こども未来課手当給 付担当副参事、こども未来課総務担当主任主事、保育幼稚園課管理担当主幹、保 育幼稚園課認定給付担当主幹、保育幼稚園課施設担当主幹、子育て保健課副参事、 子育て保健課家庭児童相談室室長、子育て保健課母子健康サポート担当主幹 （18 人）
議題	1 第二期山口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 2 令和 7 年第 1 回山口市幼児教育・保育サービス検討懇話会について
内容	次第に沿って以下のとおり進められた。 【こども未来部長挨拶】 （事務局）配布資料の確認 【委員紹介】 【会長・副会長の選出】 【会長挨拶】 【議題 1】 （会長） 議題 1 第二期山口市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について事務局 の説明を求める。

(事務局)

資料に基づき説明

以下、各委員及び事務局の発言要旨

(委員)

23ページに、「3 幼児期の学校教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保」の令和6年度取組内容の1番目に、「認定こども園整備費助成事業」があります。これは管内幼稚園の既存園舎の解体に対する助成と書いてあります。具体的には費用はいくらかかり、助成金はいくら出たのか。それから既設の認定こども園を解体する際は、この助成の対象になるのかどうかをお聞きしたい。

(事務局)

まず、管内幼稚園の認定こども園移行にかかる既存園舎の解体についての助成金ですが、補助対象経費の4分の3が補助となりまして、補助実績といたしましては、933万円となっております。こちらにつきましては、認定こども園の新設に係る、増改築に伴う既存園舎の解体でございまして、そちらについては解体費用も、補助の対象となっております。

(委員)

もう1点、26ページ(3)の9番、「認定こども園運営事業」について、副食費の免除と書いてあります。私どもも、物価高騰対策として給食費に対する補助金をいただいております。しかし、私どもは給食提供を業者委託しています。業者委託をしている場合は、保護者負担、つまり給食費の値上げをしますと、市からの助成金と同じ額ほど減額になる仕組みになっており、これでは意味がありません。給食費の値上げは、食品代も上がる、電気代も上がる。経費がみんな上がりますが、我々としては、給食費の保護者負担を増やすことは控えています。何か他に補助や助成をいただけるのか。そうしないと、関係費が全部値上がりしてる中、教育費に対する負担を減らさざるを得なくなる。そのあたりについてお尋ねしたいと思います。

(事務局)

給食費物価高騰に係る給食費の補助につきましては、令和4年度から毎年実施しておりまして、委員がおっしゃったように、物価高騰分を保護者負担に転嫁した場合、つまり、保護者の給食費を増額した場合は、その部分について補助金は交付できないことになっております。この補助金の趣旨が、物価高騰も保護者負担に転嫁させないための補助金でございまして、保護者負担に転嫁していない施設については、物価高騰分をすべて補助できていると考えております。

(委員)

制度ですから仕方がないですが、何か他に助成とか補助とか、そういうことは市ではお考えはないでしょうか。

(事務局)

山口県保育所副食費等物価高騰緊急対策支援事業費補助金制度を活用いたしまして、令和4年度以降、私立保育園、幼保連携型・保育所型認定こども園につきまして、食材費増加への支援を行っているところでございます。各園におきましては、それぞれの実情を踏まえたかたちでの支援を受けられておりますことから、実績といたしましても、対象となるすべての園から申請がなされている状況ではございません。こうした状況も踏まえ、今後も引き続き、県の財源を活用した支援を考えておりまして、物価高騰対策に係る国や県の動向について、しっかりと注視して参りたいと考えております。

(委員)

24ページの、子どもの成長と子育てを支援する事業について、1つ目の、子どもを安心して生み育てられる環境が整っていると思う子どもを持つ親の割合が大きく改善、向上したということで、高校生の医療の無償化、第2子以降の保育料無償化等々、いろいろでしょうが、その辺りも県内の他市に比べても、山口市は早く取り組みをされているなということで、そういう世代の評価を得られたということ。その下の、悩みが解決できている親の割合のところは気にはなるんですけども、一方で、29ページ、地域において子どもが健全に育成されていると感じている市民の割合、これはいわゆる子育て世代ではなくて、全世代ということで、年齢の高い方についてそういう評価がなかなかないために、数字的にはあんまり高くないかなと思うんですけども。やはりその子育て家庭が、環境が整っているということをアピールしながら、年齢の高い方がどういうイメージを持たれるか分からないんですけども、全体として、数字がもう少し改善されるといいなと。どう情報発信をするのか、どういうふうにお話をお聞きするかということもあるんですけども、全体として、市民全体が、山口市が子育て、子どもにやさしいところ、実際の施策が展開されている中で、どうアピールしていくかというところが、非常に大事なと思いますし、そうすることで、山口市で子どもを産み育てることが、他の市に比べて、安心してできるということが理解されて子どもも増えていくのかなと思います。そのあたりの情報発信の仕方がなかなか難しいところではあると思うんですけども、そういう子どもたちが、育てやすいと思われる方たちの意見もいろいろと伝えながら、発信をしていただけたらと思います。

それともう1つ、貧困対策の方で、これもいろんな数字の改善というか、これをなされていると思うっておりますが、実際、今その物価高騰とかで、ひとり親家庭

の皆さんの、電気代、食費、あるいは今お米、とかですね、大変だという状況をお聞きしています。あと収入は変わっていないので、買い物を控えたり、お米が手に入らないので、お米を子どもだけ食べさせているお母さんもいらっしゃる、そういった、課題として厳しい現状がありますので、そういった辺りへの支援、お金を寄付すればいいのかっていうだけではないんですけども、そういった実態も掴んでいただいて、その意味での支援も、お考えいただけたらというふうに思います。

(事務局)

まず地域の子どもが健全に育成されていると感じている市民の割合のところでございます。目標数値からは、少しポイントが下がっているという状況がございます。子どもを取り巻く活動につきまして、いろんな取組がされております中で、行政といたしましても各部局において、子どもが少なくなってくる中、いろいろ取組をしているところでございまして、その中で、やはり子どもが通ってくるというところに、地域の方もしっかり関わっていただけるような取組を今後も進めていければと思っております。また、情報発信につきましては、市のウェブサイトの方でも、いろいろな取組を情報発信させていただいてますけど、各部局の方でも発信をさせていただいています。また昨今、SNSの活用も進めているところでございますのでそうしたところと、あと、やはり児童、生徒対象となりますと、学校の方を通じて、そういった情報も発信をさせていただければと思っておりますし、こうした行政の取組に加えましてやはり地域の、今ご参加いただいている方も含めまして、いろいろなご支援をいただければと考えておりますので、そうした中で進めていければと思っております。また、先ほどの貧困の対策のところでございますが、こちらの方も、市の取組といたしましては、例えばひとり親家庭の経済的支援であったりとか、先ほど冒頭でもお話をさせていただきましたように、国の方で児童手当の拡充であったりとか、そういったところも進んできたところでございます。また、昨今いろいろな取組の中で、例えばこども食堂につきましては、困っている家庭への取組というところもございまして、先ほどの地域の取組と繋がっているところもありますので、市としてもこうした取組の支援を進めていければと思っております。今回の山口市こども計画にも、そういった項目も記載させていただいておりますので、取組を進めていければと思っております。

(委員)

1 ページの保育園、幼稚園の件で、0歳児で育休明けに復帰をしようと思っても、預け先がないとか、上のお子さんと違う保育園に預けなければならないというお話を聞いています。違う保育園だと、お母さんの負担がすごく大きくなるので、上のお子さんが通われている園に、下のお子さんを入れるようなシステムはできないのかなと考えております。もう1つが、20ページの乳児訪問。母推さん

が、何度訪問しても、いないことが多い。マンションやアパートとか、なかなか入ることも難しく、アパートであれば、割と転出が多いもので、例えばそのご案内をポストに入れようかなと思っても、名前が出てなかったりすると、もしかしたらここにはもうこの方がいらっしゃらないのかな。違う方のところに入れてしまうのもっていう不安があって、持ち帰るとかいうのを聞くんです。これは市の方から、母推の方に、リアルタイムとまではいかないですけど、なるべく早い段階で、この方転出されましたっていうことを教えていただくことはできないかなと思っております。できれば皆さん訪問したいと思っておりますし、なかなかいらっしゃらないっていうハードルがあるので、そのところ、どうにかならないのかなって思います。

(事務局)

まず、兄弟入園について、本市の利用調整基準の考え方といたしましては、父母それぞれの保育ができない理由や、状況別に当てはまるケースをそれぞれ数値化し、指数で計算をしております。どうしても保育の必要性として、就労・障害であったり、求職中であったり、様々なケースがありますので、それに応じた指数を設定しているところでございます。先ほど申し上げた、兄弟同時入所につきましては、調整指数の加点として指数を設けております。そのように、全体を通して、皆さんがフラットなかたちで、申し込みの指数を計算しまして、指数の高い方から順番に利用調整を行っている状況でございます。やはり、年度当初となりますと、なかなか空きがない状況もあり、入所が難しいケースもありますので、そういった利用調整については、兄弟同時申し込み等も含め、様々なケースで、調整できるところは加点というかたちで、取り組んでいるところでございます。

2 つ目のご質問にお答えいたします。母子保健推進員さんの家庭訪問については、市の方から、委託をしております、訪問の同意を、妊娠届に来られたときに、母子保健推進員の活動内容について、ご説明させていただいて、同意を取られた上で、お願いしております。家庭訪問でのご苦労はいろいろな研修会ですとか、役員会の中でもお聞きしております、大変頭の下がる思いです。タイムリーに転出入の情報というのが、子育て保健課にも随時入ってきておりませんので、子育てをされている方から、子育て保健課に転出しましたと情報が入れば、すぐに、地区の担当を通じまして、母子保健推進員さんの方にはご連絡を差し上げているところです。もう少し情報がタイムリーに把握できる方法がないかということについては、今後も検討して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

私は今、1年で一番忙しい時期を迎えております。11ページ、待機児童が99名、これ素晴らしいことだと思います。児童クラブが3つできまして、待機がない状態

で、保護者の方が、とても安心していただいております。どこに勤めようか、どこに預けようか心配であるのは、どこの小学校の児童クラブも一緒に、児童クラブの空き状況によって、仕事の場所や、パートにしようか、正職にしようか悩む。だから、この待機児童が減ったというのは、安心します。やはり他市の方から聞きますと、2年生・3年生までしか入れないところもあって、山口市の児童クラブは、本当に待機児童99名、本当にすごい数字だと思います。ありがとうございます。今回、春に、18時半までの延長の関係で、山口市が18時半までできるように動いてくださって、アンケートをいただきまして、手を挙げたいんですけど。平日は何とかなりそうだけど、やはり夏休みは、保育の支援員の確保の方が難しく、それで、このたび手を下げてしまったんですけど、来年度に向けては支援員の確保ができれば、18時半まで、保護者が安心して預けられる環境にしたいと思うんです。お聞きしたいのは、今回うちは手を下げてしまったんですけど、何件ぐらい18時半まで大丈夫なところがあったのか、お聞きできればと思います。

(事務局)

まず1つ目の、待機児童の関係でございます。数値的には、昨年度からは減少している状況でございますが、本市につきましては、県内他市に比べますと人口、児童数が多いところもあるかと思います中で、まだまだ待機児童の減少に努めていかなければという状況でございますので、今後も引き続き、そこはしっかり取り組んで参りたいと考えております。また、放課後児童クラブの時間の延長についてでございますが、昨年度も子ども・子育て会議の中でご意見をいただいております。こちらにつきましては保護者の方から時間延長のご要望をいただいております。本市においては、児童クラブは、通常、学校があるときは、放課後から18時まで、それから、土曜日は8時半から18時まで、それから各長期休業期間中も8時半から18時までとしております。この中で、8時半のところ、8時の始まりの延長につきましては、これまでも実施してきたところでございますが、18時以降の時間延長につきまして、県内他市でも取り組んでおられる中で、山口市においてもできないだろうかというようなご意見をいただいておりますので、各児童クラブさんと今、調整をさせていただいてるところでございます。その中で今年度、支援員さん等の体制が確保できたところから取組を始めさせていただくというところで進めさせていただいております。今年度、まずは9月からの開始ということで、今現在調整をさせていただいてるところでございますので、正確な数字につきましては、スタート以降に公表させていただければと思っております。全体62学級ございますけれども、多くは来年度4月からのスタートも含めてご検討いただいておりますし、その中で、市としても全体が18時半の延長になりますように、今後も、努めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員)

3点ほど質問があります。1点が、24ページ、29ページにアンケートの結果が出てるんですが、改めて、いつ誰に対して取られたアンケートだったかの確認と、細かい年代別の回答数がもしお示しいただけるのであれば、別途で構いませんので、いただきたいと思います。

2点目が、24ページのアンケート結果の内容で、子育て環境は整っているが、子育ての不安や悩みを解決できている親の割合が低いというような結果になっていると思うんですけど、この点に関して実際にどういった不安や悩みを抱えていらっしゃるかっていうところまで、アンケートで取れているのか、現状把握できているのかというのを確認したいです。

3点目が29ページのアンケートの結果で、比較的、若い世代の満足度が高いけども、70代のアンケートの結果、満足度が低いというような、地域における、子どもが健全育成されているかどうかというところの回答が低いということだったんですけども、この点に関しても、なぜ、低いのかというところは突っ込めているのかというところが3点目の質問であります。

(事務局)

24ページ、29ページのアンケートですが、山口市まちづくりアンケートを例年明けぐらいにさせていただいております。市が無作為抽出させていただいた中でアンケートにお答えいただいている回答を、こちらの方にお示しをさせていただいているところでございます。それから、先ほど口頭で説明させていただいておりましたが、回答数の詳細や、2点目の子育ての不安や悩みを解決できている親の割合のところの内容につきましては、また後程、確認させていただきまして配布が可能でございましたら、配布させていただく形とさせていただければと思います。それから、29ページの、地域において子どもが健全に育成されていると感じている市民の割合の分析でございますが、先ほどご説明をいたしました通り、アンケートの内容につきましては、10代、20代の方が、この地域において子どもを健全に育成されていると感じているということでの回答は比較的高かったというような状況でございます。この中で、まだしっかり分析できている状況ではございませんが、いろいろな活動の中で、ご高齢の方については、やはり子どもさんが多い状況とか、そういったところの中での活動状況と比べてというものもあるのかなと思いますし、様々な要因があるかと思うしますので、そこはしっかりまた分析して参りたいと考えております。

(委員)

先ほど児童クラブの11ページの話がありまして、山口市の小学生は大体1万人ぐらいいて、高学年になると、児童クラブではなくて、それ以外の塾なのか、そうした中でやはり特に夏休みとかですね、児童クラブに行っていないくて、家にいても、さっきのひとり親家庭のこともちょっと関連があるのですが、家でエアコン

はあるが、あってもエアコンをかけていると費用もかかるということで。そういったときに、例えば、山口市は地域交流センターがすごく充実していて、当然平日は空いている。利用状況はわかりませんが、そういうときに、夏休みとか限定でも一部屋か二部屋ぐらい、涼しい部屋で、お昼ご飯まで食べさせてくれるのは、なかなか難しいかもしれませんが、職員の方の負担になるかもしれませんが、そういう形で利用できるようになると、そこで勉強して遊んだりということで、家にいなくてもエアコン代もかからないし、そういう子どもたちと過ごせるようなことができたならと以前から思っておりましたので、またご検討いただけたらと思います。

あと中学校がクラブ活動の地域移行ということで、費用がかかるようになるとか、遠くに行かなきゃいけなくなるとかで、クラブ活動を今まで通り続けられない子どもたちもいるのかなと。そういう子どもたちの1つの居場所だったと思うんですけども、それがなくなったときに、学校の中にいるとまた先生たちの負担になるのかなと思いつつ、夕方だったら地域交流センターも難しいかもしれないんですけども、そういう中学生のクラブ活動に、今までだったら参加しやすい状況だったのが参加できなくなる場合の、その中学生の居場所をどう確保するかというところとかも、考えていく必要があるのかなと思います。児童館についてもあって、山口市の児童館はそんなに多くはないと思うんですけど、当然、場所とか人がいるわけですけども、そういった機能を、地域交流センターの活用とかも含めて、そういう形で子どもの居場所とか受け皿を確保できたらと。あるいは不登校の子どもたちも、フリースクールが県内そんなに多くはないかなと思うんですけど、そういう形で平日の昼間の選択肢を増やすということで、いろんな形で子どもたちに合った対応ができるのかなと思いますので、既存の施設とか制度も活用しながら、あまり負担が大きくならないような形で居場所っていうのをご検討いただけたらと思います。

(事務局)

子どもの居場所づくりということで、こちらにつきましては、このたび、策定させていただきました山口市こども計画の方にも、この居場所づくりの充実といったところで記載をさせていただいております。国の方の動きでも、そういった子どもの居場所づくりがうたわれているところでございます。こうした中、地域交流センターの活用につきましては、地域交流センターとしての事業もありますし、教育委員会との連携事業を、これまでも進めてきているところでございます。そういったことも含めまして、先ほどおっしゃったように、子どもの居場所として活用できるかといったことは、今後、また考えていくべきところかなと思っております。それから、児童館についてですが、山口市には4つの児童館がありまして、これからも活用しながら、居場所づくりにつきましては、進めていければと思っております。中学生のクラブ活動や不登校にかかる居場所づくりにつきましても、全体として取り組んでいく中で対応できればというところでございます。

(事務局)

ご意見の中で、地域交流センターの夏休みの活用ができないかというところですが、夏休みに地域交流センターに空き部屋があるときに、小学生とか中学生の勉強会をすとか、そういうのができないかっていうのは、ここ数年、各地域交流センターで進んでおります。今、実際やってるのは、やっぱりどうしても小学生向けが多い。来年度以降、中学校の部活動の地域移行に関して、やっぱり中学生についてもそういう場所を求めるところもありますので、朝から来て、中には弁当を持ってきて地域交流センターで食べていいよというようなところもありますし、なかなか昼食の提供というのは難しいので、そういうところはあまりないような感じでは聞いてはおりますが、中学生も対象にした取組も地域交流センターでしております。今後についても、先ほど言われた、部活動の地域移行に伴う、部活に入らなかった中学生の居場所についても、各地域交流センターで夏休みもいろいろな講座等を行っていますが、それも今年度中学生を対象にした講座っていうのが、半分近くの地域交流センターが実施しておりますので、昨年度までほとんどなかったんですが、このあたりも、各地域交流センターで取り組むような働きかけもしているところでございます。来年度以降も、21 地域交流センターに、教育委員会からもお願いしていければと思っております。

【議題 2】

(会長)

議題 2 令和 7 年第 1 回山口市幼児教育・保育サービス検討懇話会について事務局の説明を求める。

(事務局)

資料に基づき説明

(会長)

ただ今の事務局の説明について、ご意見、ご質問等ございますか。

質問なし

【その他】

(会長) その他について事務局の説明を求める。

(事務局) 今後のスケジュールについて説明

(事務局) 閉会の辞

以上にて、第 1 回山口市子ども・子育て会議閉会

会議資料	1 令和7年度第1回山口市子ども・子育て会議次第 2 令和7年度第1回山口市子ども・子育て会議席次表 3 山口市子ども・子育て会議委員名簿 4 山口市子ども・子育て会議 出席職員名簿 5 〔資料1〕山口市子ども・子育て会議設置条例 6 〔資料2〕「山口市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について（報告） 7 〔資料3〕令和7年度第1回幼児教育・保育サービス検討懇話会 次第 8 〔資料4〕令和7年度第1回山口市幼児教育・保育サービス検討懇話会（報告）
問い合わせ先	こども未来部こども未来課 総務担当 TEL 083-934-4138